

		炭疽病	灰色かび病	うどんこ病	萎黄病	アブラムシ類	ハダニ類	コナジラミ類	ハスモンヨトウ幼虫	アザミウマ類(花)	備考
ほ場率 (%)	発生ほ場数	10	1	11	8	11	27	45	0	6	総調査ほ場数: 66か所 総調査株数: 1,650株 (調査株数 25株, 調査花数 100花)
	本年平均値	15.2	1.5	16.7	12.1	16.7	40.9	68.2	0.0	9.1	
	平年値	3.4	0.7	23.7	6.8	8.3	37.3	36.0	3.6	16.1	
	(本年平均値/平年値) × 100	447.1	214.3	70.5	177.9	201.2	109.7	189.4	0.0	56.5	
株率 (%)	発生程度	多	多	平年並	やや多	多	平年並	多	少	やや少	○今月の病害虫発生状況○ ・炭疽病及び萎黄病が例年より多くのほ場で発生がみられています。 ・うどんこ病の発生は平年並みです。 ・ハダニ類の発生は、平年並みですが、ほ場間で発生量の差が大きい傾向があります。 ・アブラムシ類及びコナジラミ類が例年より多くのほ場で発生が見られます。
	発生株数	0	0	27	1	25	207	208	0	11	
	本年平均値	0.0	0.0	1.6	0.1	1.5	12.5	12.6	0.0	0.2	
	平年値	0.0	0.1	2.5	0.2	1.3	11.4	5.9	0.2	0.4	
概 評	(本年平均値/平年値) × 100	-	0.0	64.0	50.0	115.4	109.6	213.6	0.0	50.0	
	発生程度	少	少	平年並	やや少	平年並	平年並	多	少	やや少	

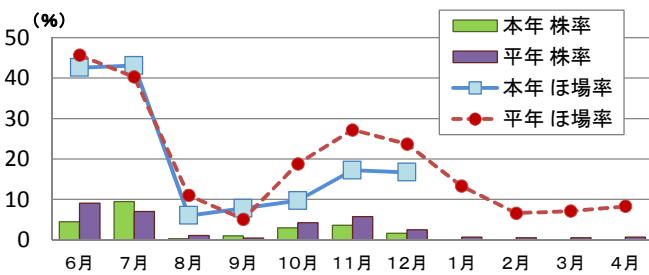


図1 うどんこ病発生ほ場率・株率

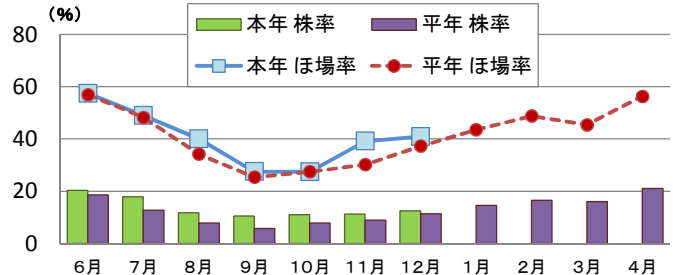


図2 ハダニ類発生ほ場率・株率

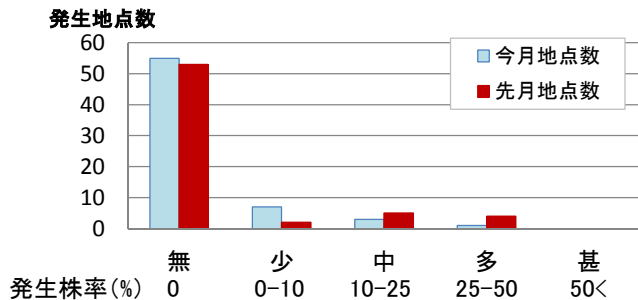


図3 発生程度別の地点数(うどんこ病)

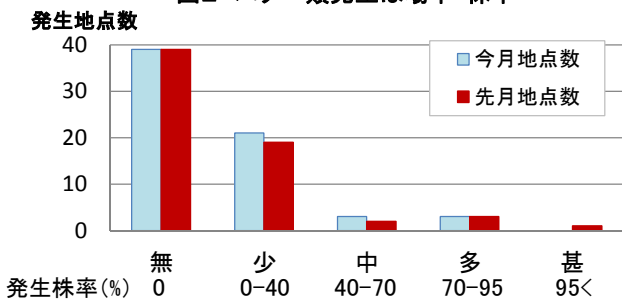


図4 発生程度別の地点数(ハダニ類)

○うどんこ病対策

- ・適正な温度管理,換気やかん水を行う。
- ・発生予防のため、硫黄剤でくん煙する。
- ＊硫黄くん煙は天敵に対し悪影響があるため、長時間の使用は避ける。
- ・発生が見られる場合は、サンリット水和剤やカリグリーン等を散布する。

○ハダニ対策

- ・ほ場をこまめに観察し、増殖する前に防除を行う。
- ・化学農薬に対する感受性低下が著しいため、必ずローテーション散布を行うとともに薬剤抵抗性が発達しない気門封鎖剤や天敵製剤を活用する。
- ・必要に応じて葉かきを行い、薬剤がかかりやすい状態で気門封鎖剤等を散布する。
- ・天敵を放飼する前に、必ず一度防除をしてハダニの密度を下げる。なお、使用薬剤については、天敵に影響の小さい剤を選ぶ。



写真 うどんこ病が発生した果実

○今月の技術情報(技術指導班)○(12月)

- ・病害では、育苗中に確認された炭疽病、萎黄病が現在も本ほ場で発生が確認されています。また、11月下旬以降の雨天、日照時間の減少、低温等により雨天後のほ場では、灰色かび病が見られます。今後も引き続き灰色かび病などに注意する必要があります。
- ・害虫ではハダニ類、アブラムシ類が引き続き多く、コナジラミ等の発生が見られます。換気時間が短い中での防除は、品質低下が懸念されますが、早期発見、早期防除に努めましょう。春先の気温上昇とともに急激に増加する恐れがありますので、年内のうちに出来るだけ密度を下げておきましょう。特に、ハダニ類の発生は、生育も大きく左右させます。
- ・今後も低温傾向が継続すると生育の遅れ、収穫量の減少につながる恐れがあります。ハウスの隙間を無くして保温効率を上げるなど温度管理を徹底し、作柄を良好に保ちましょう。